

第7回 町長定例記者会見

- 開催日時 平成27年12月3日（木）午後1時30～
- 開催場所 遠軽町役場2階応接室
- 記者数 3人

報道機関の皆様におかれましては、日頃より町政など地域の情報を町民にお届けいただき、心からお礼申し上げます。

さて、本町は、10月に合併してから10年を迎えることができました。これを記念しまして、今年、さまざまな記念事業を行ってまいりました。

11月には7日に、関西学院大学の小西教授、合併時のアドバイザーも務めていただきましたが、小西教授と合併市町の首長を迎えて、記念講演とパネルディスカッションを行いました。その中で、これまで国が合併を進めてきた経緯や、遠軽町が中心となり、合併市町が連携して要望した結果、地方交付税の算定替えが良い方向に見直されたこと、合併に苦勞した話や、違う町が一つになることの難しさなどが話されて、今後のまちづくりに大いに参考になったと思っております。

また、15日にはNHKのど自慢公開生放送が遠軽町を舞台に開催されまして、町内外から約1千人を超える来場者を迎えました。放送後には特産品に関する問い合わせもあり、広く全国に遠軽町がPRできたと考えております。

これら記念事業の開催につきましては、関係者の皆様にお礼を申し上げたいと思います。

■12月定例議会議案から

それでは、今回の12月の議会の議題からご説明申し上げます。12月7日から遠軽町議会定例会が開会されます。

・遠軽町財政計画を定めることについて

平成20年度に策定した遠軽町財政計画の計画期間が今年度で終了することから、来年度から10年間の財政計画を定めるために、議会の議決を求めるものであります。

厳しい財政状況の中、合併をしたわけでございます。過去に借り入れた地方債の償還に加え、地方交付税の削減による厳しい財政状況の中、健全化に努めてまいりました。この間、国の経済対策や地方交付税の増額、地方債の償還が進んだことから、財政状況は大きく改善され、基金残高も非常に高い水準を維持しております。そしてまた、先ほども話したように、合併して10年目を迎えて交付税は減っていきます。これは合併市町村だけです。というのは、合併して10年というのは、我々のところでいけば、4町村、別々にあると仮定した中で交付税をもらっているから多かったわけでありまして、これが下がってきます。そして、一本算定と申しますけれども、15年経つと、本来一つの町の交付税になるということでございます。これについて、私は北海道の合併市町連携会議の会長を務めておりますけれども、全く私共の発想で国に要望運動を開始して、本来、15年目に遠軽町でいうと13億円落ちると、交付税ですから色々と動きますけれども、今のペースで落ちる。これが毎年7割、約9億円は残っていくという、そういう大きな要望活動の成果を取ることができたということで、交付税制度が大幅に変わらない限りは、将来的には非常に長い期間にわたっても、安定した財政運営ができるだろうと思っております。

・指定管理者の指定について

牧場が伊吹など10ほどありますが、この指定管理者をまた指定する、そして生田原コミュニティセンター「ノースキング」も3年の期間を終えたので、また新たに非公募で選定するという事で、議会の議決を求めるものであります。

・補正予算について

主なものとして、北海道の新規事業である市町村連携モデル事業に伴うYESプロジェクト推

進協議会負担金及び地域医療対策連携会議負担金の追加、丸瀬布厚生病院損失負担金並びに生田原診療所補助金の額確定に伴う増減、機構集積協力金交付事業補助金、中体連全道大会等の出場に伴う学校行事負担金などが計上されております。

■市町村連携モデル事業について

国では、地方圏における、中心都市と近隣市町村が相互に連携協力し、圏域全体で必要な生活機能を確保して、人口定住を図る「定住自立圏構想」を進めております。これにつきましては、広域分散型で多様な地域構造をもつ北海道では、この取り組みを進めるのは難しい現状であります。基本的には、5万人といった人口が無ければ認めていただけないということでありまして、私どもの地域では難しいのかなとずっと思っておりましたが、私の方で北海道に働きかけておりました。これについて、国は中々動いてくれませんが、道庁で独自の構想を、計画を作っていただきまして、湧別、佐呂間、遠軽の3町が一つになって、この事業、道庁版の定住自立圏構想とでもいいですか、こういったものをできるという形になりました。

遠軽町は、今年3月に湧別町、佐呂間町と開発期成会を立ち上げております。これは、立ち上げたというか復活させたということにもなりますが、合併前、7か町村ありました。いまは3町ですが、7か町村で期成会がありました。これは非常に強力な団体でしたが、合併を機に解散したままでした。これについても、もう一度やろうということで、非常に結びつきの強い3町が復活させまして、先に申しあげた市町村連携モデル事業を生かした取り組みを行っていきたいと思います。

具体的な事業としましては、補正予算にも負担金を計上しております「YESプロジェクト推進協議会」を立ち上げます。YESは湧別・遠軽・佐呂間の頭文字を取ったものでありまして、この3町に5か所あり、さらに、本町で新たに整備を行っております「道の駅」をはじめとした公共施設で取り扱っています、地元食材を活用した特産品開発に取り組んで、地域活性化と観光のイメージアップを図っていききたいと思っておりますし、この事業は、これからさらに色々なもの発展させていききたいと、3町の協力によってやっていきたいと考えております。

また、産婦人科医師の引き揚げにより、分娩を休止している遠軽厚生病院の産婦人科医師を確保するため、専門員による医師招への委託、医師を対象に遠軽厚生病院の視察・体験をしてもらう、お試し暮らしの実施のほか、妊産婦の不安を解消するため、助産師による電話相談などの事業に取り組むたいと思います。

現在、遠軽厚生病院では、元副院長の木村医師が「毎月第1月曜日」のみ婦人科の診療を行っておりましたが、受診希望者が多いことから、来月からは従来の診療日に加え「第1火曜日」にも診察も行うことになったとの報告を厚生病院から受けております。

少しずつ患者の皆様の不安が解消されてくることは喜ばしいことではありますが、今後とも、何としても産婦人科の再開に向けて、厚生病院、厚生連本部、道庁、そして遠軽紋別地域の市町村と連携しながら産婦人科の再開に向けて取り組んでまいりたいと思います。

■遠軽町特産品開発支援事業について

町内における物産品が減少しております。遠軽町としては目立った商品、お土産一つにしても中々無いのかなと思っておりました。これについては、道の駅もできることから、さらにスピードアップして、魅力的な特産品を開発するための支援制度を創設します。

具体的には、遠軽町で生産される原材料を使用するか、または、本町に関わりのある名称を用いた商品で「えんがる」の魅力を発信できる特産品の開発や、現在ある商品で、パッケージの改良に取り組む事業者等に対し、新規の商品開発は50万円、既存商品の改良は30万円を限度に補助するものです。

現在、事業実施に向けて準備を進めておりますが、この支援制度により、さまざまなアイデアが生まれ、既存の企業の振興補助金などもありますけれど、そういったものと組み合わせる中で、

魅力ある商品が開発されることを期待しております。

■（仮称）遠軽豊里 I C 周辺施設整備について

この I C 開通に合わせて整備を進めております道の駅につきましては、現在、基本計画策定に向けて、検討協議会による協議を行っており、このたび、コンセプトについて方向性が示されました。この協議会については、住民の方も入っていただいておりますし、また、ワークショップといったものも公募した中でやっております。本町としては、必ず住民の方も参加してやっております。そういった中で、方向性が示されたということでもあります。

コンセプトは「ゲレンデと遠軽とオホーツクの魅力を発信する道の駅」であります。これを実現するために「スキー場併設ならではの様々な体験や、オホーツクの恵みを活かした賑わいづくり。食や文化を守り・育て・続ける、地域を再発見できる空間づくり。そして、旅に楽しさと安全を提供し、災害時も安心して滞在できる情報・交通・防災の拠点づくり」を整備の考え方としてまいりたい、オホーツクの玄関口としての施設にしたいと思っております。今後は施設の規模や内容の方向性が示された後、考える会を設置して、運営に携わっていただくであろう方々で議論を進めていただきたいと思いますと考えております。

■路線バスの無料運行について

国の交付金を活用して、今月 1 日から 14 日まで、町内だけを走る路線バスを無料運行しております。この機会に、路線バスをご利用いただき、最も身近な公共交通機関であるバスの魅力や利便性を感じていただければと考えております。

なお、この期間中、一部の路線では、乗降調査やアンケート調査を実施しますので、皆様のご協力をお願いいたします。

■遠軽高校ラグビー部の全国大会出場について

9 月に行われました、北海道予選を勝ち抜いた遠軽高校ラグビー部が、今月末に行われる全国大会に出場します。大会の様子はパブリックビューイングの開催も予定されておりますので、ぜひ、多くの皆様にご声援をいただければと思います。

また、大会出場にあたり、多くの皆様にご支援をいただいております。特に、一番最近では、福岡の会社から 100 万円の寄附をいただいたということでもあります。これは、管内の町村会で各町村の製品のプレゼンを首長自ら行ってきたということがありまして、その時にラグビーの話をしたら、さっそく社長から連絡をいただいて、多額の寄附をいただいたということでもあります。

■冬期間のイベントについて

冬の一大イベントであります「湧別原野オホーツククロスカントリースキー大会」が来年 2 月 28 日に開催されます。今大会では、国内最長の 85 km コースをはじめとする個人コースに加えて、新たに北大雪スキー場から丸瀬布中学校までの 37 km の「白滝ジオパークコース」が新設されます。現在、申込み受付が始まっております。さらにバラエティに富んだコースで、皆様のご参加をお待ちしております。

また、冬になると巨大な氷柱になる、丸瀬布の「山彦の滝」につきまして、1 月以降に昼の観察会や夜のツアーなどが予定されております。

これら、冬のイベントでオホーツクの大自然を満喫していただければと思います。

クロスカントリースキー大会については、一度中止してから中々、以前のような 3 千 2、3 百というような数字にいたりしていません。コースについても、一時の色々な災害などの状況により質が落ちておりましたが、これについては相当手直しをしておりますので、これからまたちょっと

と増えてくるのかなど、時間もかかると思いますが、しっかりPRしていきたいと思っております。